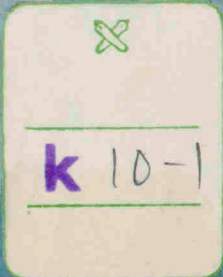


解剖訓蒙  
執帶論

四



F 4  
力-22

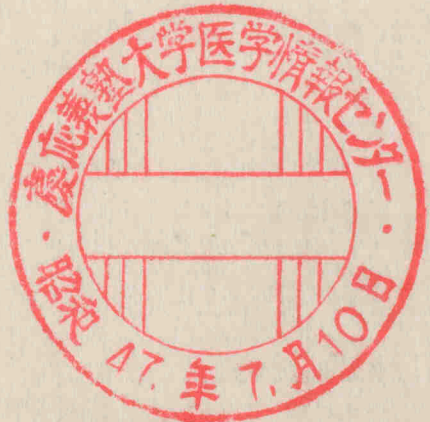


國立中央圖書館

藏書



491.1  
Ka-3  
No. 2390  
IR K 10-1



富士川文庫

2450



解剖訓蒙卷之四

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日 本文部省出仕安藤正胤譯

關節韌帶論

髖關節

ト、ア、ロ、マ、キ、セ、ラ、ン

下髖ト顯髖ノ關節ハ、下髖髌、顯髖淺窩、及ヒ結節

トニシテ、其面悉ク軟骨ニテ被覆ス其運動ノ模

式ハ、第一口ノ開閉ニ於テハ、髖髌自ラ樞軸ト爲

テ、淺窩中ニ輾轉スルナリ、恰モ門戸ノ運樞ノ如

シ、第二前後二方ノ送轉ニ於テハ、髖髌進テ淺窩

ヨリ結節上ニ到リ復退テ淺窩ニ歸ルナリ、  
 左右二方ノ運轉ニ於テハ、腭窩其左右互ニ交代  
 シ、斜ニ淺窩ヨリ結節上ニ到リ復退テ淺窩中  
 ニ歸ルナリ蓋シ其門樞運動ハ、即チ上下ノ運動  
 ニシテ、齒齧ノ作用ヲ為シ、其他前後及ヒ左右ノ  
 運動ハ、咀嚼ノ作用ヲ為セリ、

カテラ、ゴ、イン、タ、ア  
 一、テ、モ、ラ、ー、リ、ス、

此關節間ニ於テ、扁圓ナル軟骨板アリ、關節間軟  
 骨ヲイングラア、カテラ、ゴ、ラ、ー、ト稱ス、其位置地平ニテ、  
 關節面ヲ分隔シ、以テ兩室ト為ス、而シテ兩室ノ裡  
 面ハ、各關節膜ニテ装貼セリ、

カ、メン、ト、ム、マ、キ、セ  
 ラ、ラ、テ、ラ、ル、ハ、ニ、キ、ス、テ  
 ス、ム

メン、ブ、ラ、ナ、ア、ー、テ、モ  
 ラ、ー、リ、ス、リ、ガ、メン、ト、

軟骨板ハ、其縁厚シテ、囊鞞帶ニ附着ス、之レヲ前  
 後ニ截断スレハ、截縁S字形ヲ呈ス、此骨板ニ由  
 テ、下腭自在ニ運動スルヲ得、且ツ常ニ腭髁ニ伴  
 ヒテ、淺窩ヲ微衝スルノ力勢ヲ減殺ス、  
 囊鞞帶リカプシメノラトハ、關節ヲ被包スル者ニシテ、  
 其組織薄ク、且ツ緻密ナラス、上方ハ、淺窩及結  
 節ノ周圍ニ附着シ、下方ハ、下腭ノ頸部ニ附着ス、  
 外側鞞帶エキステラル、リガメヌルトハ、強キ短帶ニシテ、  
 關節ノ外側ニ位シ、前帯ヲ扶助スル者ニシテ、上  
 方ハ、衝突起ノ基礎ニ附着シ、下方ハ、下後方ニ展



由テ、多少厚薄アルトヲ以テ、椎柱ノ形状、乃チ屈曲セリ、蓋シ薦骨ノ屈曲スルハ、其固有ノ形状ニ由ル者トス、

圓盤ノ造構ハ、其中心ニ毳布状ノ纖維軟骨ヲ有シ、周圍ハ、短小ナル數箇ノ纖維層、重疊セリ、而シテ、其每層ニ於テ、第一層ノ纖維右行スレハ、第二層ノ纖維左行シテ、互ニ相交錯シ、且ツ其位置ニ於テ、外層ハ外方ニ屈曲シ、内層ハ内方ニ屈曲シテ、亦タ互ニ鉛直ナラス、此纖維ハ、椎体ノ隣接間ニ斜行シ、即チ其体ヲ維持ス、

椎間靱帶ヲ截断スレハ、截口ニ於テ、毳布状ノ物、忽チ膨出キリ、因テ識ル、毳布状軟骨ハ、彼ノ纖維層ノ中央ニ充填シテ、常ニ其腔窄ヲ蒙ルナルハ、此靱帶ハ、脊椎柱ヲ維持シ、兼テ之ニ撓屈性ヲ賦與スルヲ以テ、椎柱ノ運動、其定度アルモ、機ニ臨テ恣マ、ナルヲ得、且ツ周圍ノ纖維層ハ、交错シテ、其外層、椎体ニ固着スルヲ以テ、椎柱、繆轉スルヲ得ルナリ、蓋シ此靱帶ニ、弾力性ヲ有スルハ、其中心ニ在ル、毳布状軟骨、常ニ腔窄セラレ、ニ由ルトス、是故ニ、吾人直立スレハ、身体ノ重

カ、脊椎柱ヲ壓抑シテ、圓盤ノ纖維層愈々委屈ス  
 ルヲ以テ、軀幹乃チ減短シ、匍匐スレハ、其理相反  
 スルヲ以テ、軀幹乃チ添長ス且又暮夜ニ至リ、將  
 ニ眠ラントスルキハ、軀幹自ラ減短シ、而シテ晨旦  
 ニ至リ、將ニ起ントスルキハ、其理亦々相反スル  
 カ為ニ、軀幹自ラ添長スルモ、皆ナ此纖維層ノ緩  
 急ニ隨フ者ナレハ、其一長一短スル所以ヤ、當ニ  
 了解シ得ルハシ、  
 椎間鞆帶ニ由テ、椎柱諸片ノ聯合スルヲ看ルニ、  
 其運動ノ度ハ、甚限制サル、然レモ之ヲ察スル

リガメンタフラ  
 リガメンタソブフラ

全  
 リガメンタソブフラ  
 リガメンタフラ

ニ恰モ自在運轉ヲ為セル杵臼關節ニ類似セリ  
 何トナレハ、每椎間ノ圓盤ノ中心ニ在ル纖維軟  
 骨ハ、乃チ頭球ノ作用ヲ為シ、其周圍ニ在ル纖維  
 層ハ、乃チ止駐鞆帶ノ作用ヲ為ス、且ツ脊椎柱ノ  
 装置ヲ熟視スルニ、各方ニ運轉シ、兼テ其内部ニ  
 含有スル所ノ至弱ニシテ至要ナル脊髓ヲ保全  
 スル者ナレハ、其奇工ノ貴キヲ決シテ輕卒ニ看  
 過スルナカレ、

黄靱帶  
 黄靱帶ニシテ、脊椎柱諸弓

ノ間ニ位シ、即チ頸椎ノ第二片ヨリ起テ、薦骨ニ

全  
リガメンタインタク  
ムラリア

甲  
リガメンタムコンギ  
テナレアンテ  
リラス

リガメンタムハ、マポ  
リボス、ウルテブラ  
ーロム、コンニユー  
子、アンテリヲス

到ル、其着點ハ、上弓下部ノ前面、及ヒ下弓上部ノ  
後面ニ於テ、棘状突起ト横突起ノ兩間ニ在リ、其  
造構ハ、黄色ノ彈力組織ニシテ、其纖維ハ、椎弓ノ  
間隙ニ密布ス、

前椎靱帶 アランテリヌ、ウルトハ、強固ナル繫帶ニシ

テ、上方ハ、枕骨基礎突起ヨリ起リ、下方ハ、尾骶骨  
ノ末端ニ到ル、即チ脊椎柱ノ全徑ニ亘ルナリ、其  
上端ノ圓キ部ヲ以テ、尋常一個ノ靱帶ト做シテ、

別ニ前中枕骨 アタラシ 靱帶 アクンシテ、ピリヌ、ミドロ

メ、ド、トリガト 稱ス、下行スルニ從テ、漸次ニ擴張シ、

其椎体ニ對向スル所ニ於テハ、最モ厚且ツ著明

ニシテ、薦骨上ニ於テハ、取モ薄シ、而シテ推間靱帶

部ト、椎体隣接部トニ於テ、最モ緊密ニ固着ス、

造構ハ、束縛セル、緻密ナル、纖維ニシテ、其表層ハ、

脊椎柱中ノ三四片ノ全徑ニ亘リ、次層ハ、二三片

ノ全徑ニ亘リ、深層ハ、唯ニ片隣接ノ間ニ亘ル、

此靱帶ノ作用ハ、脊椎柱ノ各片ヲ結締シ、且ツ横

膈脚ノ起端ト為リ、且ツ咽頭、胃管、胸管、大動脈、不

對靜脈、及ヒ下行大靜脈ニ附着シテ、之ヲ維持ス、

後椎靱帶 ポスラテリヌ、ウルトハ、強固ナル纖維帶

甲  
リガメンタム、コン  
ギ、テナレアンテ  
リヲス

全  
リガメン  
トム、コ  
リボス、  
ロム、ポ  
ステリ  
ラス

解部訓蒙 卷之四  
ニシテ、其側縁、弓状ニ彎曲シ、乃チ髓管中ニ占位  
ス。上方ハ、枕骨ノ基礎突起ヨリ起リ、下方ハ、尾  
骨ノ末端ニ達ス。其經過中、椎間靱帶ニ對スル所  
ハ、横徑ニ擴張シテ、椎体ノ隣接縁ト、椎間靱帶ト  
ニ固着シ、而シテ椎体ノ中部ニ於テハ、狭窄セリ、而  
テ此帶ト、椎体トノ中間ハ、脊椎竇ノ横静脈ニテ  
分界セリ、  
椎骨關節突起ハ、軟骨ヲ以テ被包シ、而シテ關節ゴ  
トニ、關節膜ト、薄キ囊靱帶トヲ有セリ。此關節ハ、  
運動ノ定度、僅少ニシテ、唯タ脊椎柱、屈曲スルキ

全  
リガメン  
トム、ア  
ピキ

全  
リガメン  
トム、ア  
ピキ

全  
リガメン  
トム、ア  
ピキ

ニ、稍ヤ滑動スルノモナリ  
棘上靱帶 ス、リ  
ガメ  
ス、  
パ  
ト  
イ  
タ ハ、棘状突起ノ頂上ヲ  
結締スル、細キ纖維帶ニシテ、上方ハ、頸椎ノ末片  
ヨリ起リ、下方ハ、尾骶骨ノ末端ニ達シ、殊ニ腰部  
ニ於テ、寂モ強固ナリ。其上端ハ、項窩靱帶ニ連續  
シ、下端ハ、擴張シテ髓管ヲ閉鎖ス、  
棘間靱帶 ス、  
リ  
ガ  
メ  
ス、  
パ  
ト  
イ  
ス ハ、其隣片ノ棘状突起  
ヲ結締スル、薄キ纖維膜ニシテ、即チ前帶ヨリ展  
延セシ者ナリ、  
項窩靱帶 ガ  
メ  
ン  
カ  
ト  
ル  
リ ハ、疎鬆ナル纖維組織ニシ

テ、頸部ノ兩側ノ筋間ニ於ケル中隔ナリ、而シテ頸椎末片ノ棘状突起ヨリ起リ、上行シテ枕骨鷄冠ニ沿テ、其結節ニ達ス、

此靱帶ノ發育、人ニ在テハ、極メテ微小ニシテ、獸類ニ比スレハ、畢竟萌芽ヲ發スルノミ、蓋シ四足獸ニ在テハ、殊ニ強固ニシテ、且ツ彈力ヲ有ス、故ニ能ク、其首領ヲ維持スルヲ得タリ、

枕骨、<sup>アタラス</sup>及ヒ<sup>アキシス</sup>關節<sup>シ</sup>ニシテ、

前後枕骨<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

前後枕骨<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

全  
トリス、アキシス、ア  
トリス、アキシス、ア  
トリス、アキシス、ア  
トリス、アキシス、ア

トリス、アキシス、ア

ソガメハ、廣且ツ薄キ纖維膜ニシテ、枕骨孔ト<sup>アタラス</sup>ノ隣接縁ニ涉リ、枕骨髁ト<sup>アタラス</sup>ノ關節突起トノ前後ニ占居ス、

前後<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

前後<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

前後<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

前後<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

前後<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

前後<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

前後<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

前後<sup>アタラス</sup>靱帶<sup>シ</sup>ニシテ、

シ枕骨ト、アタラス、及ヒ「アキシス」ノ關節突起ト  
ニ於ケル、囊鞞帶モ、亦タ疎鬆ニシテ、柔緩ナルヲ  
以テ、頭顱ノ廻轉、及ヒ屈伸ノ運動ニ的當セリ、

甲  
リガメント、  
ンス、  
ラシム

横鞞帶ス、リガメントハ、強固ナル鞞帶ニシテ、  
タラスノ内側ニ於ケル、兩結節ノ間ニ涉リ、以テ  
齒状突起ヲシテ、其位置ニ固定シ、且ツ脱去セザ  
ラシム、此功用ヲ、愈々強固ナラシムル為メニ、其  
中央ヨリ、又メ一帯ヲ生シテ、上下ニ進行シ、其上  
方ノ者ハ、枕骨孔ノ前縁ニ附着シ、下方ノ者ハ、齒  
状突起ノ基根ニ附着ス、蓋シ横鞞帶ト、相交叉シ

甲  
リガメント、  
アラー、  
メデラム

テ、即チ十字形ヲ畫スルナリ、

齒状鞞帶リガメントハ、其數三箇ニシテ、齒状

突起ノ各側、及ヒ其尖頂ヨリ上行シテ、共ニ枕骨

孔ノ前縁ニ固着ス、而シテ其側帯ハ、中帯ヨリモ強

剛ナリ、此鞞帶ノ作用ハ、頭顱ノ廻轉運動ヲ限制

ス、

齒状突起ト、アタラストノ聯接面ハ、軟骨ニテ被

覆シ、且ツ關節膜ニテ裝裏シ、而シテ囊鞞帶ニテ圍

擁セル、一個ノ關節ヲ造為ス、此關節ト同式ナル

者アリ、即チ齒状突起ト、横鞞帶ノ間ニ存在セリ



甲  
リガメントム、コストタ  
ランス、ヴァルサール、アン  
テリヲス

全  
リガメントム、コストタ  
ランス、ヴァルサリヲム、イ  
ンタルノム

乙  
リガメントム、コストタ  
ランス、ヴァルサール、ポ  
ステリヲス

全  
リガメントム、コストタ  
ランス、ヴァルサリヲム、エキスタ  
ルノム

丙  
リガメントム、コストタ  
ランス、メデヲス

全  
リガメントム、コスト  
ウ  
コム、コスト

間靱帯ニ到ル上十肋ノ結締ト、背推ノ横突起ノ

間ニ於ケル關節モ稍ヤ運動スヘク、而シテ亦々囊

靱帯ニテ圍擁セリ、其他、每肋ニ於テ、三箇ノ靱帯

ヲ有シ、以テ横突起ト繫合ス、即チ其一箇、前肋横

靱帯アンス、ヴァルサリヲム、リガメントラハ、膜様ノ繫帯ニシ

テ、肋頸ト上横突起ヲ結締シ、其一箇、後肋横靱帯

ニス、ヴァルサリヲム、リガメントラハ、短帯ニシテ、肋骨ノ結

節ト隣接スル横突起ノ末端トヲ結締シ、其一箇

中肋横靱帯ミドル、コストタラトニスハ、短キ纖維ニ

シテ、肋頸ト隣接スル横突起ノ中間ニ存在ス

胸肋關節コスト、ス、ラ、ル、ス、ハ、第一肋ノ他、總テ

肋軟骨ハ、胸骨ノ外側ニ關節シ、其周圍ニ囊靱帯

アリテ、衛固シ、内部ハ、關節膜ニテ装貼ス、此關節

ノ前後ニ於テ、肋軟骨ヨリ、胸骨上ニ放線スル纖

維アリ、前後胸肋靱帯アン、コ、ス、テ、リ、ヲ、エ、ン、ド、リ、ガ、メ

ット称ス、亦々爰ニ衛固ス、此靱帯ハ、前方竅モ著

シク、左右相會合シテ、胸筋ノ腱膜ニ連續ス、第七

肋軟骨ト、胸骨ノ第三片ヲ結締スル、薄キ纖維帶

アリ、肋劍靱帯コリ、ガ、ト、サ、イ、ト、リ、ト、称ス、第六ヨリ

第九肋軟骨マテ、隣接縁若シ互ニ結合セサル

リガメントム、ガイ  
ライ、デ、ム



前方ノ者ハ短帶ニシテ、縫合ノ前面ニ位シ、以テ  
 二骨ヲ繫結シ、後方ノ者ハ強剛ニシテ、縫合ノ後  
 面ニ位シ、即チ腸骨ノ後棘状突起、及ヒ其近傍ノ  
 粗糙面ヨリ起リ、斜メニ横行シテ、薦骨ノ聯合面  
 至ル、

リガメントム、イリフ  
 ロンバーレ

腰腸靱帶

リイリガメノロンバ、ハ、纖維繫帶ニシテ、腰椎

終片ノ横突起ノ末端ヨリ起リ、外方ニ擴張シテ、  
 腸骨脊ノ後部ニ附着ス、

リガメントム、イリフ  
 イシアテユム、イリス

大薦坐靱帶

アグリクト、リガメノロンバ、ハ、三角形ノ強靱

帶ニシテ、其基礎ハ、腸骨ノ後下棘状突起ト、薦骨

ト、尾骶骨下縁トニ附着シ、尖端ハ、狭小ニ展延シ  
 テ、坐骨結節ノ内縁ニ固着ス、

甲  
 リガメントム、イリフ  
 ス

小薦坐靱帶

アステクト、リガメノロンバ、ハ、前帯ニ比スレ

ハ、弱劣ニシテ、之ト共ニ、薦骨ト、尾骶骨トノ両縁  
 ヨリ起リ、其纖維、漸次ニ輻湊シ、以テ坐骨棘ニ附  
 着ス、

以上ノ大小靱帶ニ由テ、坐骨截間ハ、乃チ大小ノ  
 坐骨孔ト為ル、而シテ大孔ハ、橢圓ニシテ、梨子状筋、  
 坐骨神經、臀陰具、坐骨血管、及ヒ神經ヲ通シ、小孔  
 ハ、三角形ニシテ、鎖孔筋、内陰具血管、及ヒ神經ヲ

通ス

上肢關節及ヒ運動アリテモ、ト、ラ、ダ、セ、エ、

リ、バ、エ、キ、ス、テ

胸鎖關節 アステルノ、ク、ラ、シ、ヨ、キ、ラ、ハ、胸骨ノ上角ト、

鎖骨ノ内端ヨリ成リ、其周圍ハ、囊韌帶ニテ抱擁

ス、而、此韌帶ノ強部ハ、前後胸鎖韌帶ヲ、ア、ン、テ、リ

ラ、テ、リ、ス、ラ、ガ、メ、ル、ク、ラ、成、セ、リ、關節ハ、二、回、ナル

關節間纖維軟骨 シ、イン、ブ、ア、カ、テ、シ、ラ、ニ、由、テ、乃、チ

二部ニ區分セラル、而、テ、其纖維軟骨ノ周圍ハ、第

一肋軟骨ト、鎖骨ノ上縁ト、及ヒ囊韌帶トニ附着

甲  
リ、ガ、メ、ン、ト、ア、イ、ン、タ  
ラ、ウ、キ、ラ、イ、

乙  
リ、ガ、メ、ン、ト、ア、コ、ス、ト  
ク、ラ、ウ、キ、ラ、イ、

全  
リ、カ、メ、ン、ト、ア、ロ、ン、ボ  
イ、デ、ス

ス、爰ニ又々二個ノ副韌帶アリ、其一ハ狹帶ニシ

テ、鎖骨間韌帶ヲ、イン、タ、ク、ラ、ウ、キ、ト、稱ス、胸骨上ニ

横居シ、以テ兩鎖骨ヲ維持ス、一ハ強帶ニシテ、肋

鎖韌帶ヲ、コ、ス、ト、ク、ラ、ウ、キ、ト、稱ス、第一肋軟骨ヲシ

テ、鎖骨ノ下部ニ結締セシム

軀幹ト上肢トヲ繫約スル者ハ、特リ此胸鎖關節

ノミニシテ、其韌帶尤モ剛直ナリ、然レモ敢テ妨

碍セラル、トナク、能ク各方ニ運轉シ、大ニ自由

ヲ得タリ、蓋シ此運動ニ於テ、全肢ハ、之ニ關與ス

レ、モ、胸骨ハ、依然トシテ、只其動威ニ任了スルノ



乙  
リガメントムアス  
テラム

鳥啄上臂靱帯ルコラコメヒマヲ以テ之ヲ衛固ス、  
 此關節ハ、身体中ニ於テ、最モ運動ス、キ關節ニ  
 シテ、各方運轉ノ距離、亦タ廣大ナリ、故ニ種々ノ  
 装置ヲ具有シテ、之ヲ護衛スレ、屢脱去シ易シ  
 蓋シ上臂頭ノ面ハ、其運轉スル、淺窩面ノ廣度ニ、  
 三倍スルヲ以テ、尚ホ其窩ヲ深カラシメンカ為  
 メニ、周圍ニ於テ、三稜形ノ纖維軟骨靱帯ヲ附着  
 ス、之ヲ淺窩靱帯リグリノイトト称ス、而シテ其上方  
 ニ於テ、二頭筋ノ長頭腱、其起端ヲ取レリ、此腱ハ、  
 關節部ヲ通過シテ、上臂ノ二頭筋溝ニ達シ、兼テ

甲  
リガメントムグレ  
ノイデス

甲  
リガメントムゴラコ  
アクロミアール  
 全  
リガメントムトリア  
ンギュラール  
 全  
リガメントムスカヒ  
レプロプリウムアン  
テリヲス

關節ニ於テハ、靱帯ノ作用ヲ為ス、蓋シ其關節ノ  
 通過スルニ於テ、關節膜反展シテ、之ヲ被包シ、以  
 テ淺窩ト分隔セリ、  
 爰ニ又タ三角形ノ強キ纖維帶アリ、鳥啄肩頭靱  
 帯ミエラコアト称ス、其尖端ハ、肩頭ニ附着  
 シ、基礎ハ、鳥啄突起ニ附着ス、斯ノ如ク、肩頭ト鳥  
 啄突起ノ間ニ占位シテ、關節ノ上方ヲ被覆シ、乃  
 チ廣キ穹隆状ヲ成ス、故ニ此靱帯破レサレハ、上  
 臂骨ノ脱去、決テ此方向ニ於テセシ三角筋モ、亦  
 タ大ニ此關節ノ上部ノ強固ヲ補助シ、肩胛下筋、

棘上筋、棘下筋、及ヒ小圓筋ノ腱ハ、關節ノ前後ヲ  
 固密ニ圍擁シ、而シテ上臂結節ニ到テ附着シ、關節  
 ノ下部ニハ、三頭伸筋腱ノ長頭ヲ附着ス、若シ是  
 等ノ諸筋ヲ、悉ク截斷スレハ、此部ノ囊韌帶、固ヨ  
 リ弛緩ナルヲ以テ、上臂頭、下垂シテ、常位ヲ脫離  
 スルヲ、殆ト一「イン」許ニ及フ可シ、此關節ノ運  
 動ハ、前後、上下、繆轉、及ヒ廻轉ノ作用ヲ主宰セリ、

肱關節 シモ、エ、ン、ボ、

肱關節ハ、上臂下臂ノ兩骨ヨリ成リ、其裏面ハ、關  
 節膜ニテ裝貼シ、周圍ハ、囊韌帶ニテ被覆シ、且ツ

甲  
メン、プラ、カ、プ、シ、  
ラ、名、ビ、ー、デ

甲  
リ、ガ、メン、ト、ム、ラ、テ  
ラ、ー、レ、イ、ン、テ、ノ、ム

全  
リ、ガ、メン、ト、ム、ラ、テ  
ラ、ク、ビ、タ、ー、レ

全  
リ、ガ、メン、ト、ム、ラ、テ  
ア、ー、ト、ム

全  
リ、ガ、メン、ト、ム、ラ、テ  
ア、ン、ギ、ラ、ー、レ

乙  
リ、ガ、メン、ト、ム、ラ、テ  
ラ、ー、レ、エ、キ、ス、テ、ノ、ム

内外ノ兩側ニ於テ、別ニ韌帶アリテ、之ヲ衛固ス  
 囊韌帶 カ、プ、シ、ラ、ハ、薄ク粗鬆ニシテ、其上方ハ、

上臂骨ノ關節面ノ上ニ附着シ、以テ肱突起ト、烏  
 啄突起ヲ受容セル凹窩トヲ圍擁ス、下方ハ、尺骨

ノ半月窩縁ト、環狀韌帶トニ附着ス、其造構、前方  
 ニ比スレハ、後方甚々弱劣ナリ、

内側韌帶 ラ、イ、ン、テ、ハ、強帶ニシテ、肱突起  
 ト、烏啄突起ノ間ニ放線ス、即チ上臂骨ノ内髁ヨ

リ、尺骨ノ大半月窩ノ内縁ニ到ル、

外側韌帶 ラ、エ、キ、ス、テ、ハ、狹帶ニシテ、上臂

全 リガメントム、ブラキ  
ヌラデアール

甲 リガメントム、アヌ  
ライレ

骨ノ外髁ト、環状靱帯ノ間ニ普達ス、  
 下臂骨ノ運動ハ、唯々上臂骨ニ對向シテ屈伸ス  
 ルノミ、蓋シ其運動ニ於テ、尺骨ハ、特ニ屈伸スル  
 ノミナレバ、橈骨ハ、屈伸ニ兼テ、尺骨ト、上臂骨ト  
 ニ向テ廻轉セリ、  
 上撓尺關節ナ、セ、シ、ペ、リ、モ、レ、シ、デ、ユ、ヲ、ル  
 上撓尺關節ハ、肱關節ノ一部ニシテ、橈骨ノ頭ト、  
 尺骨ノ小半月窩ヨリ成リ、其關節膜、及ヒ囊靱帯  
 ハ、即チ肱關節ト相共ニス、橈骨頭ハ、強キ纖維帶  
 ニテ被包ス、之ヲ環状靱帯ガ、ア、ヌ、ラ、ト、リ、ト、稱、ス、此、靱

全 リガメントム、ラビ  
キライレ

甲 リガメントム、インタ  
セラム  
全 メンブラナ、インタ  
セラム

乙 リガメントム、デーレス  
全 リガメントム、ラブリ  
名ヲム

帯ノ末端ハ、尺骨ノ半月窩ノ前、及ヒ後方ニ附着  
 ス、  
 中撓尺關節ナ、セ、シ、ド、ル、キ、レ、イ、デ、ヲ、ヲ、ル  
 中撓尺關節ハ、橈骨ト尺骨トノ間隙ニシテ、其全  
 徑、五分ノ四、下方ハ、至薄且ツ強固ナル、骨間膜ナ、イ  
 ンダブレム、ス、メ、アリテ、橈骨ノ銳縁ヨリ起リ、其纖維  
 斜メニ下行シテ、尺骨ノ對縁ニ附着ス、此膜ハ、撓  
 尺二骨ヲ結締シ、其他、下臂深筋ノ起因ト為リ、且  
 ツ血管アリテ穿通セリ、間隙ノ上部ニ於テ、斜ナ  
 ル一個ノ帯アリ、圓靱帯ガ、ラ、ウ、ン、ド、リ、ト、稱、ス、尺、骨

全  
コルダ、タラン、ス、ウ、ル  
サ、リ、ス

角音言蒙

卷之四

ノ鳥喙突起ヨリ下行シ、橈骨結節ノ下部ニ達ス、  
 下撓尺關節セ、イ、ン、五、リ、ヲ、モ、レ、イ、ジ、ン、ヲ、ハ關節間ニ、三角形ノ纖維軟骨ヲ挿  
 之、以テ腕關節ト、分隔ス、蓋シ此軟骨ノ基礎ハ、撓  
 骨ノ半月窩ノ下縁ニ附着シ、尖端ハ、尺骨ノ頭ト、  
 錐頰突起トノ間ニ於ケル、凹窩ニ附着ス關節ノ  
 周圍ハ、粗鬆ナル、**囊韌帶**ニテ被包ス、此韌帶ハ、撓  
 尺二骨、及ヒ纖維軟骨ノ關節縁ニ結合ス、  
 撓骨ノ運動ハ、尺骨ノ上ニ内轉ス、其模式、即チ前  
 方ニ於テ、尺骨ニ乗シテ交叉シ、斜ニ十字形ヲ呈

ス蓋シ手腕ノ位置ハ、撈骨ノ運轉ニ從フモノニ  
 シテ、下垂スルキハ、其掌、後方ニ向ケリ、之ヲ内轉  
 運動ト云フ、之ニ反シテ、撈骨已レノ位置ニ復シ、  
 即チ尺骨ノ外側ニ平行スルキハ、其掌、前方ニ向  
 ケリ、之ヲ外轉運動ト云フ蓋シ撈骨ノ運轉ハ、其  
 頭、環狀韌帶ノ内ニ於テ、上臂骨、及ヒ尺骨ノ小半  
 月窩ニ廻轉シ、其下端、尺骨ノ頭上ニ旋回ス、  
 腕關節即チ撈腕關節○セ、リ、ス、ト、ジ、イ、ン、ト、  
 ハ上方ハ、撈骨、及ヒ三角形ノ纖維軟骨ヨ  
 リ成リ、而シテ此軟骨ハ、撈尺二骨ヲ維持ス、下方ハ、

解剖川

卷之四

十九

|                          |                          |                   |                   |                          |
|--------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|--------------------------|
| 全                        | 乙                        | 全                 | 全                 | 甲                        |
| リカメントラム、ラテラ<br>ーレ、エキステラム | リカメントラム、ラテラ<br>ーレ、エキステラム | リカメントラム、ラテラ<br>ーレ | リカメントラム、ラテラ<br>ーレ | リカメントラム、ラテラ<br>ーレ、インテルノム |

船槓骨、半月槓骨、及ヒ楔状骨ヨリ成ル、其周圍ハ、  
 緩祐ニシテ粗鬆ナル、囊韌帶ヲ以テ被覆ス、此韌  
 帶ハ、關節面ノ隣縁ニ附着ス又タ別ニ二個ノ強  
 帶アリテ、之ヲ衛固ス、其内方ノ者ヲ〔内側韌帶〕ニ  
 呼ビ、リガメラントラト稱シ、楔状骨ヲ、尺骨ノ錐頭突起  
 ニ繫合ス、外方ノ者ヲ〔外側韌帶〕ニ呼ビ、リガメラ  
 トト稱シ、船槓骨ト撓骨ノ錐頭突起トノ間ニ達  
 ス、爰ニ又タ單ナル關節膜アリテ、唯タ撓腕關節  
 ノ裏面ノミヲ裝貼セリ、  
 此關節ノ運動ハ、即チ手腕ヲシテ、屈伸、内轉、外轉、

及ヒ旋廻セシム、而シテ其旋廻運動ハ、畢竟撓骨ノ  
 廻轉スルニ由ルナリ、

腕骨間、及ヒ腕掌骨關節セ、イン、カル、ポ、メ、タ、  
テ、カ、ル、レ、パ、ル、シ、ア、ン、

豆骨ハ、楔状骨ト一個ノ關節ヲ成シ、其裏面ハ、關  
 節膜ニテ裝貼シ、外圍ハ、強固ナル囊韌帶ニテ被  
 包セリ、腕骨ノ第一列中、船槓骨、半月槓骨、及ヒ楔  
 状骨ハ、共ニ其上部分ニ於テ、骨間韌帶イ、ン、タ、ガ、メ、  
ツ、ヲ以テ維持ス、第二列中、小冨稜骨、備頭骨、及ヒ  
 鈎状骨ハ、共ニ其中央ニ於テ、亦タ骨間韌帶ヲ以

テ維持ス蓋シ内側四個ノ掌骨ノ基礎ニ於テ維持スル景況モ亦然リ、  
 豆骨ヲ除クノ他、總テノ腕骨ト、拇指ヲ除クノ他、  
 總テノ掌骨ノ基礎トハ、短キ纖維帶ヲ以テ相互ニ維持ス、  
 手掌及ヒ手背韌帶サパルマ、リガメ、ドトル是ナリ、  
 此兩帶、内外ヨリ相對向シテ、自ラ囊韌帶ニ代リ、  
 以テ腕骨ト、掌骨ノ基礎トヲ、各被覆セリ、關節ノ裏面ハ、  
 一箇ノ關節膜ヲ以テ裝貼ス、蓋シ此等ノ關節ハ、  
 運動スルヲ無シ、然レモ腕骨ノ第二列ノ間ニ於テハ、  
 其關節、所謂鉸鈕運動ヲ為スナ

リ、  
 拇指ノ掌骨ハ、大冨稜骨ト共ニ、運動關節ヲ成シ、  
 囊韌帶ニテ被包ス、蓋シ此關節面ハ、拇指ノ凸部、  
 冨稜骨ノ凹部ニ入り、冨稜骨ノ凸部、拇指ノ凹部ニ入テ、  
 互ニ啣合シ、以テ聯接スルカ故ニ、前後内外ノ運動ヲ許容シ、  
 乃チ拇指ヲシテ、自在ニ他ノ諸指ニ對向セシム、  
 内側四個ノ掌骨頭ハ、各其前方ニ於テ、  
 稍ヤ疎鬆ナル、  
 横韌帶ス、タラガンメ、ソトル以テ維持セリ、  
 掌指骨及ヒ指骨間關節セ、メタル、エカ、ヤ、ポ、ソ

掌指骨關節、及ヒ指骨間關節ハ、總テ強キ側韌帶  
 ヲ以テ維持ス、此韌帶ハ、其部ノ上方ノ骨側ヨリ  
 起リ、少シ斜メニ前方ニ下行シテ、同側ノ下方ノ  
 骨側ニ達ス、蓋シ左右ノ兩側共ニ然リトス、此關  
 節ノ前部ハ、厚キ纖維軟骨狀ナル、手掌韌帶ハ、  
ガトメヲ以テ衛固ス、此韌帶ハ、側韌帶ノ中間ニ達  
 シテ、關節ノ上、及ヒ下ノ骨緣ニ附着ス、蓋シ此着  
 點、其上方ハ、下方ニ比スレハ、稍ヤ緩ナリ、而シテ此  
 韌帶ヲ、手掌ヨリ見ルキハ、溝形ヲ呈ス、是レ屈筋

腱ノ通路ナリ、  
 關節ノ後部ハ、伸筋腱ノ展延ヲ以テ被覆ス、此展  
 延部、即チ韌帶ニ代リテ作用セリ、掌骨ノ頭ト、指  
 骨、第一列ノ基礎トノ關節ハ、屈伸、及ヒ内外ノ運  
 動ヲ為ス、然レモ指骨間關節ハ、只タ屈伸ノ運動  
 ヲ為スノミ、

下肢ノ關節、及ヒ運動

下肢ノ關節ハ、上肢ノ關節ヨリモ、尚ホ強剛ナラ  
 シ、トテ要ス、蓋シ其造構ノ強固ニシテ、廣大ナル  
 ハ、只タ運轉ノ自在ナルヲ專ニスルニ非ス、但タ

軀體ヲ支柱スルヲ求ムルナリ、既ニ論スル如ク、  
胫骨ハ、軀幹ノ一部タルニ、其下肢ニ關係スル、  
猶ホ肩胛骨ノ上肢ニ於ルカトシ、然リ而シテ、此  
骨ニ在テハ、全ク運動セサルナリ、

膝關節 ヒップ、クニ

膝關節ハ、髌骨及ヒ大腿骨頭ヨリ成ル、是レ身體  
中、最強キ關節ニシテ、其造構、所謂杵臼關節ナリ、  
蓋シ此關節ハ、各方ニ運轉スルヲ自在ナレバ、肩  
胛關節ニ比スレバ、其度大ニ限制セラルハナリ、  
髌骨ハ、即チ大腿骨頭ヲ受容スル、凹窩ニシテ、其

甲  
ラフロム、カーテラジ  
ラム

リガメントム、テールス

深度ヲ増加スルニ、三稜玻璃形ナル纖維軟骨ノ  
環状靱帶ヲ以テス、之ヲ蓋窩靱帶 甲 リコラモノイトト  
稱シ、即チ髌骨ノ周縁ニ附着シ、而シテ蓋窩截間ヲ  
越ルニ、一孔ヲ作り、以テ關節血管ヲ通ス、大腿  
骨頭ヨリ圓形ノ強キ纖維帶ヲ出ス、圓靱帶 乙 ラドウ  
ノリガメント稱ス、内方ニ擴張シテ、蓋窩截間ノ縁ニ  
附着ス、

此關節ノ囊靱帶ハ、亦々體中最強キ靱帶ニシテ、  
其上端ハ、髌骨ノ周圍ニ附着シ、以テ蓋窩靱帶  
ヲ被覆ス、下端ハ、大腿骨ノ前轉子間線ニ附着シ、

イリヲ、左モラハリ  
カメント

而ノ後轉子間線ノ上方、即チ大腿骨頭ニ緩着セ  
 リ、關節ノ前部ニ於テ、件ノ囊韌帶ヲ衛固スル、一個  
 ノ廣キ纖維帶アリ、副韌帶リアガメソトリ、ト称ス、  
 此帶ハ、腸骨ノ前下棘状突起ト、前轉子間線トノ  
 中間ニ普達ス、爰ニ又々大ナル諸筋ニテ、囊韌帶  
 ヲ圍擁シ、以テ關節ヲシテ、愈強固ニ保護セリ、  
 此關節ノ内面ハ、關節膜ヲ以テ装貼ス、此膜、大腿  
 骨ノ頭ヲ被包シ、且ツ圓韌帶ノ上ニ反展ス、囊韌  
 帶及ヒ諸筋ヲ截斷スルニ、大腿骨頭ヲシテ、脾曰

ヨリ脱離ヒシムルニハ、尚ホ強カラ要セサル可  
 カラス、是レ全ク大氣ノ外壓ニ由テ、然ラシムル  
 ナリ、

膝關節 イセ、ニト、シラ

膝關節ハ、身体中最モ大ナル關節ニシテ、其造構  
 極テ錯雜ナリ、此關節ハ、所謂鉸鈕運動ヲ主トシ、  
 而シテ僅ニ迴轉運動ヲ兼子リ、乃チ關節屈スルニ  
 ハ、脛骨ヲシテ、腿骨ノ後面ニ層疊セシメ、伸フル  
 時ハ、脛骨ヲシテ、腿骨ト直線ナラシム、蓋シ屈ス  
 ル寸ハ、脛骨、自軸ヲ為シテ、各側ノ運動ヲ許容ス

レ氏伸フレハ然クスルヲ能ハス、  
 此關節ノ基礎ヲ為ス者ハ、大小腿骨ノ兩髁、兼テ  
 其中間ニ於ケル、纖維軟骨及ヒ膝蓋骨ニシテ、互  
 ニ相ヒ隣接セル骨面ハ、各軟骨ヲ以テ被包シ、周  
 圍ハ薄キ囊韌帶ニテ圍擁シ、裏面ハ潤大ナル關  
 節膜ニテ裝貼シ、且ツ強キ帶狀韌帶、及ヒ近傍ノ  
 諸筋ノ腱ニテ衛固ス、

甲  
 フイブロ、カーテラジ  
 ーチス、セミルナ  
 レス

小腿骨ノ髁上ニハ、兩個ノ半月狀纖維軟骨  
セミルナ  
レフイブロ、カヲ戴ク、其式ハ、半月狀、即チC字形ノ  
 骨板ニシテ、外縁ハ厚ク、内縁ハ薄ク、恰モ三稜玻

璃ノ如シ、其兩端ハ、小腿骨ノ棘狀突起ノ前後ニ  
 附着ス、此兩板ノ設置ニ由テ、小腿骨上ハ、淺窩ナ  
 ル關節面ト為リ、以テ大腿骨ノ兩髁ヲ受容ス、此  
 板、其内側ニ在ル者ハ、周圍ノ囊韌帶、及ヒ側韌帶  
 ニ固着ス、外側ニ在ル者ハ、附着緩祐ナルカ故ニ、  
 大腿骨ノ運動ニ從テ、各方ニ滑轉ス、此板ハ、小腿  
 髁ヲシテ、大腿髁ニ聯合セシムルノ他、二髁ノ摩  
 擦ヲ防キ、且ツ彈力性ノ隔枕ト為リテ、此部ノ擊  
 動ヲ減少シ、且ツ大氣ノ外壓ニ由テ、囊韌帶ノ骨  
 間ニ挿入スルヲ防護ス、

甲  
リガメント、ム、クリ  
シアータ

大腿骨髌間凹窩ノ兩側ヨリ、一對ノ強キ纖維帶  
ヲ生ス之ヲ十字韌帶ガクリシルト稱ス、互ニ交  
叉シテ、小腿骨ノ棘状突起ノ前後ニ附着ス、此韌  
帶ハ、脛ノ屈伸運動ヲ限制シ、殊ニ其屈スルキニ  
於テ、關節ヲ扶助シ、以テ愈々強固ナラシム、ハ囊韌帶  
ハ、薄キ潤大ナル一囊ニシテ、大小腿骨ノ兩髌ノ  
粗縁、及ヒ膝蓋骨ノ側傍ニ附着シ、且ツ關節近傍  
ニ附着スル諸筋ノ腱ト結合ス、此韌帶ハ、其質極  
テ薄ク、恰モ近傍ノ骨膜ノ展延セル者ノ如クニ  
シテ、且ツ其處々ニ於テ、諸筋ノ腱ヲ附スル者ト

解剖学  
卷之四

リガメント、ム、ハ、テリ

者做ス可キニ似タリ、關節ノ後方ニ於テ、斯ク膜  
上ニ來附スル者ハ、半膜筋ノ腱ナリ、而メ此腱ハ、  
大腿骨ノ外髌ト、小腿骨ノ内髌トノ中間ニ、普達  
スル者ナリ、  
膝蓋骨ノ上方ニ於テ、四頭伸筋ノ腱アリ、此腱、即  
チ強韌帶ニ代リテ、作用ヲ為セリ、下方ニ於テ、強  
厚ナル纖維帶アリ、膝蓋韌帶ガ、リガメントト稱  
ス、膝蓋骨ノ尖端ノ前方ヨリ下行シテ、小腿骨ノ  
結節ニ至ル、是レ前脛ノ展延スル者ナリ、此韌帶  
ノ着點ノ直上ニ於テ、關節ト交通セサル、一個ノ

解剖学  
卷之四  
廿六

リカメントム、ラテラ  
イレインテム、ム

リカメントム、ラテラ  
イレキスラノム

關節囊アリ以テ小腿骨ト韌帶トヲ合界ス、  
 内側韌帶 ラインテム、ラテラハ、長廣ナル強帶ニシ  
 テ、大腿骨ノ内髌結節ト、小腿骨内縁ノ上部トノ  
 中間ニ普達ス、  
 外側韌帶 ラエキスラノム、ラテラハ、圓帶ニシテ、大腿  
 骨ノ外髌結節ト、補腿骨頭トノ中間ニ普達ス、此  
 二個ノ韌帶ハ、殊ニ脛ヲ伸フルキニ於テ、關節ヲ  
 衛固ス關節膜ハ、囊韌帶ヲ装裏シ、而シテ半月状纖  
 維軟骨及ヒ十字韌帶ノ上ニ反展シ、爾後、膝蓋韌  
 帶ト、小腿骨頭ノ間ニ於ケル、脂肪塊ノ上方ニ到

全 甲

リカメントム、アラリヤ  
リカメントム、アラリヤ  
マギラス、インテルノム  
マド、ニニユス、エキス  
テルノム

リテ、三個ノ半月状ノ皺襞ヲ作り、關節、兩側ニ  
 治テ展延ス、此展延部ヲ翼襞トシラ、フヲ稱セ  
 是ヨリ件ノ皺襞斜メニ右方ニ上行シ、左右相  
 結シ、即チ圓錐形ノ索状突起ニ延長シ、以テ  
 大腿骨髌間凹窩ノ前縁ニ附着ス、  
 膝蓋骨ト滑車面トノ上ニ於テ、彼ノ關節膜一個  
 ノ囊ト為リ、乃チ數イシテ許上行シテ、四頭伸筋  
 ノ腱ト、大腿骨トノ中間ニ展延ス蓋シ脛ヲ屈ス  
 ル時、此囊ヲ挈下シテ、大腿骨ノ滑車縁ニ到  
 シ、伸フル時、此囊ヲ挈上スルニ、四頭伸筋

解剖學

肉束ヲ以テス關節、後面ニ於テハ、彼、關節膜  
ハ、大腿骨ノ兩髁ト、腓腸筋起端、腓頭ト、中間  
ニ上行セリ、

小腿輔腿關節アセ、テヒヲ、ミボシラシム

小腿輔腿ノ二骨ハ、其上下共ニ、不動關節ヲ成セ

リ、乃チ上小腿輔腿關節シム、アリヲ、テヒヲ、ミボシラ

ハ、小腿骨ノ外髁ト、輔腿骨ノ頭ヨリ成リ、其關節

面、各軟骨ニテ被包シ、其周圍、囊韌帶ニテ抱擁ス、

而シテ此韌帶、強部ハ、即チ前後、韌帶アセ、テヒヲ、ミボシラ

ガステリヲ成ス、ガメシト小腿骨ト、輔腿骨ト、間隙ハ、骨

甲  
ペンチヲテビアル  
テキレシム

乙  
メンブラナ、インテ  
ラセテ

乙  
メンブラナ、インテ  
ラセテ

間膜インシタダレシムス、占據ス、此膜ハ、平行ナル織

維ニシテ、小腿骨ノ外縁ヨリ、斜ニ下テ、輔腿骨ノ

對向縁ニ達ス、而シテ其上部ニ、穿孔アリテ、前小腿

骨血管ヲ通過ス、此膜、下行スルニ從テ、幅徑狭小

シ、而シテ骨ノ下端ノ間ニ於テハ、短ナル強纖維ト為

シ、以テ二骨ヲ固繫ス、下小腿輔腿關節アセ、テヒヲ、ミボシラ

テ、ホシラシム、前後ニ韌帶ヲ以テ衛固ス、其前

韌帶ハ、小腿骨ノ前方ヨリ、外髁ニ向テ、斜ニ下行  
シ、後韌帶ハ、二帶ヨリ成リ、共ニ進行シテ、骨ノ後  
面ニ達ス、

解剖學

踝關節 セ、ア、ン、ト、ク、ル、

踝關節ハ、兩踝間ノ横穹ト、距骨ノ体ヨリ成ル單

一ノ絞鈕關節ニシテ、其作用ハ、唯ク屈伸スル、

ニ其周圍ハ、薄キ囊靱帶ヲ以テ抱擁ス、且ツ内側、

外側、共ニ靱帶アリテ、之ヲ衛固ス、而シテ其囊靱帶

ハ、骨ノ联接縁ヲ維持ス、其甲外側靱帶乙ハ、

リトガメハ、外踝ヨリ擴張ヒル、三條ノ強纖維ニシ

テ、一ハ、後方ニ進ンテ、距骨ノ後縁ニ到リ、一ハ、跟

骨ノ外方ニ下行シ、一ハ、前方ニ進テ、距骨ノ前縁

到ル、内側靱帶乙ハ、強帯ニシテ、

リトガメ、ト、ム、ラ、テ、ラ、  
エ、キ、ス、テ、ノ、ム

乙、リ、ト、ガ、メ、ト、ム、ラ、テ、ラ、  
エ、キ、ス、テ、ノ、ム

全、リ、ト、ガ、メ、ト、ム、ラ、テ、ラ、  
ト、テ、ス、  
全、リ、ト、ガ、メ、ト、ム、ラ、テ、ラ、  
ヲ、タ、ル、シ、ラ、ム

内踝ノ下縁ヨリ、距骨ノ同側、及ヒ、跟骨横突起ノ

間ニ擴布ス、

跗骨間、及ヒ、跗蹠骨關節乙、セ、イ、タ、ン、ル、ソ、ク、メ、イ、タ、ル、

モ、レ、サ、ル、シ、ア、ン、シ、テ

距骨ト跟骨ハ、厚キ骨間靱帶乙ス、リ、ト、ガ、メ、ヲ、シ、テ、

テ維持ス、此靱帶ハ、其二骨ノ溝渠ニテ成ル所ノ

竇中ニ占據シ、乃チ二骨ノ關節面ヲ分畧シ、其後

方ノ一面ハ、一個ノ短小ナル、薄キ囊靱帶ニテ被

包シ、且ツ一個ノ關節膜ニテ裝裏ス、他ノ一面ハ、

其下部、距骨頭ト、舶様骨トノ關節ニシテ、彼此普

甲  
リガメントム、アス  
タラガロ、スカラ、イデ  
ラム

甲  
リガメントム、カルカニ  
ス、スカラ、イデラム、エキ  
ス、ラム

全  
リガメントム、カルカ  
ニ、ナ、イ、イ、イ、イ、イ、  
ン、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、

乙  
リガメントム、カルカ  
ニ、ナ、イ、イ、イ、イ、イ、  
ン、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、

全  
リガメントム、カルカ  
ニ、ナ、イ、イ、イ、イ、イ、  
ン、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、

通ノ、囊靱帯アリテ被包シ、且ツ普通ノ關節膜、連  
續シ来テ装裏ス、

關節ノ上部ニ於テハ、廣キ纖維帯アリ、距船靱帯

ア、イ、ス、ド、タ、リ、ガ、ロ、ス、カ、ト、称ス、以テ其部ヲ衛固ス、外

側ニ於テハ、<sup>外</sup>距船靱帯、エキス、カス、ヲ、イ、ス、ル、カ、ル、カ、ニ

トアリ、距骨ト、骹子骨トノ間ニ在テ、跟船二骨ヲ

維持セリ、下方ニ於テハ、<sup>乙</sup>下跟船靱帯、カ、イ、ン、カ、ニ、ス、

ガ、メ、ン、ト、リ、ア、リ、是レ廣キ強帯ニシテ、跟骨ノ横

突起ヨリ起リ、距骨頭ノ下方ニ達シ、終ニ船接骨  
ニ到ル、

丙  
リガメントム、カルカ  
ニ、ナ、イ、イ、イ、イ、イ、  
ン、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、

丙  
リガメントム、カルカ  
ニ、ナ、イ、イ、イ、イ、イ、  
ン、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、

跟船關節ハ、短ナル一個ノ囊靱帯ニテ圍擁シ、其  
上下ハ、廣キ纖維帯アリテ衛固ス、之ヲ<sup>丙</sup>上下跟船

靱帯、ル、カ、ペ、ラ、キ、ボ、イ、ド、リ、ン、ガ、メ、ン、ト、カ、ト、称ス、

船船楔間關節及ヒ船船楔骨基礎關節、ア

テ、キ、レ、子、リ、ン、ラ、グ、ゼ、ス、カ、ニ、ト、ド、キ、ホ、イ、ト、

古ノ諸骨中、第一蹠骨ノ他ハ、總テ足背、及ヒ足蹠

ニ在テハ、相互ニ纖維帯ニテ聯合ス、此帯ハ、近傍  
ノ諸帯ヲ結合シテ、乃チ<sup>甲</sup>足背及ヒ足蹠靱帯、サ、ド、ル、

甲  
リガメントム、カルカ  
ニ、ナ、イ、イ、イ、イ、イ、  
ン、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、ニ、

三

エ、リガメントヲ成シ、又々相共ニ結合シテ、一個ノ囊靱帯ヲ作レリ、

甲  
リガメントヲムイン  
テルヲセア

骨間靱帯 リガメントヲムイン ハ、短キ纖維ニシテ、骨間

ニ占據シ、以テ船様骨ト、骰子骨、又々骰子骨ト、外

楔状骨ヲ結合シ、又々他ノ二個ノ楔状骨ヲ互ニ

ニ維持シ、而シテ外側四個ノ、蹠骨ノ基礎部ヲ維持

ス、

船様骨、楔状骨ノ關節膜ハ、骰骨ト、楔状骨トノ關

節ニ展延シテ、又々外側二個ノ、楔状骨間、及ヒ第

二、第三蹠骨間ニ展延ス他ノ關節膜ハ、骰子骨ト、

外側二個ノ、蹠骨トノ關節ヲ装裏ス、

第一蹠骨ト、内楔状骨ハ、一個ノ關節ヲ成シ、囊靱

帯ニテ圍擁シ、且ツ裏面ハ、又々別ニ關節膜ニテ

装貼ス、

長蹠靱帯 リガメントヲムイン ハ、足靱帯中、最モ著大

ニシテ、跟骨ノ下面ヨリ起リ、前方ニ進ンテ、漸次

ニ擴張シ、以テ骰子骨、及ヒ外側蹠骨ノ基礎ニ附

着ス、

此靱帯ヲ以テ、骰子骨溝ヲ、全孔ト成シ、以テ長輔

腿筋ノ腱ヲ通ス、

甲  
リガメントヲムイン  
ム、ランター、  
全  
リガメントヲム、カルカ  
ラキ、ボー、高、上、ア  
ランター、

躡趾骨及ヒ趾骨間關節ル、ア、シ、ニ、モルタ、エ、ヤ、ソ、フ、ン、ダ、ン

躡趾骨及ヒ趾骨間關節ハ、其造構手ノ同處關節

ニ異ナルヲナシ、由テ辨説セス、

解剖訓蒙卷之四終

